登場人物

サトミ

コータロ

ミナミ

部屋。散らかっている。コータロが入ってくる。寝起き。ステレオの電源を入れる。音楽が流れる。コータロ、いくらか部屋を物色する。やる気が出るのを待つが、一向に眠気がとれない。諦めて寝る。適当に毛布を引っ張り出し、適当に寝る。

サトミの声 ただいま。

コータロは寝ている。サトミ、部屋に入ってくる。コータロを見つける。

サトミ 寝てるし……。

サトミ、一度自室に入る。タオル等を持って戻ってくる。

サトミ ちょっと。

コータロ ……。

サトミ 寝るなら部屋行きな。

コータロ ……。

サトミ ちょっと。

サトミ、コータロを揺さぶるが、コータロに動く気配は無い。

サトミ コータロ。

コータロ うーん……。

サトミ、諦めて立ち上がる。

サトミ 引きこもりが……。

コータロ、突然起き上がる。

コータロ 違うから。

サトミ (一瞬驚くが、)ここで寝てんじゃないよ。

コータロ 引きこもり違う……。

サトミ 何？ そこ？

コータロ 在宅勤務。在宅勤務だから……。あー……寝てたな。寝たな。俺。

サトミ リビング散らかさないでよ。

コータロ うん……

サトミ 何でもかんでも置きっ放しにしてさあ。

コータロ ごめんて。はー……おかえり。今何時？

サトミ 九時ぐらい。

コータロ まじか。うわー……まじか。

コータロ、寝起き体操。

サトミ 片付けといてよ。(行こうとする)

コータロ あ、待ち、待ち。え、風呂？

サトミ うん。

コータロ 先、シャワー浴びさせて。

サトミ は？ 嫌。(行こうとする)

コータロ マチマチマチ。すぐだから。

サトミ いや知らないし。入るし。

コータロ 君長いでしょお風呂。俺すぐだから。ちょっと急がないとやばい。

サトミ いや知らないから。疲れてんの。

コータロ 出かけるんだよ。約束があつて。だからごめん。

コータロ、行こうとするが、サトミが止める。

サトミ ちょっと。割り込み禁止。

コータロ 一瞬待つだけ。一瞬だから。

サトミ アンタが一瞬待てばいいんでしょ？

コータロ サトミちゃん入ったら長いでしょ。何か色々、やるから。

サトミ コータロが寝てたのが悪いから。

コータロ だからごめんって言ってんじゃん。

サトミ は？ 何？ アンタ起こして風呂まで譲れと？ 起こしてあげたのに？

コータロ それはありがとう。じゃ……。 (行こうとする)

サトミ いや私が入るから！

コータロ ちょっと急いでるんだって。何イラついてんの？ お前。ちょっとめんどくさいよ。

サトミ アンタが自己中なんでしょうが。

コータロ もう寝るだけだろ？ 俺は予定あるの。ちょっと待つだけだから。一瞬だからさあ。

サトミ 何でそんな私が悪いみたいな事言われなきゃいけない訳？

コータロ いや分かってるよ。俺が悪いよ。謝ったじゃん。お礼言ったじゃん。その上でお願いしてる訳だろ。

サトミ 疲れてんの。早く寝たいの。だからさっさと体洗いたいの。だから無理。

コータロ 何意地になつてんだよ。

サトミ はあ？ アンタが……。

コータロ 分かったって。じゃあ、一緒に入る？

サトミ は？

コータロ 一緒に。

サトミ、コータロの頬を叩く。

サトミ 最低。

チャイムが鳴る。サトミ、条件反射で玄関に意識が向く。その隙に、コータロは風呂に直行する。

サトミ あ。

コータロ お先。

サトミ、追いかけてやめようとするが、やめて、玄関に向かう。

サトミ ニート野郎……。 (出ていく)

コータロの声 働いてるから！

無人の部屋に音楽が鳴っている。

サトミの声 ちょっと！ コータロ！

サトミ、部屋に入ってくる。外に向かって、

サトミ ごめん、ちょっと待ってもらっていいかな。ごめんね。

ミナミの声 いいえ。

サトミ あいつシャワー行って。すぐ呼んでくるから。ごめんね。

ミナミの声 いえ、いえ私が急に来たのが悪いので。全然。

サトミ ううん。全然。こっちこそ全然。

ケータイが鳴る。サトミ、自分のケータイを探す。部屋には無い。

サトミ ちょっと、ごめん。入ってて。ごめん。

サトミ、自室に行く。ミナミが入ってくる。おそろおそろ部屋を物色する。座る所に迷い、とりあえず立っている。

ミナミ ……。

コータロの声 サトミー？

ミナミ、コータロの声にビクツとする。

コータロの声 サトミ、お前さ、九時四十五分なら、四十五分ってちゃんと行ってよ。それほぼ十時だよ。ったく……。

ミナミ ……。

コータロの声 サトミさん、聞こえてる？ 俺のシャツ知らね？

ミナミ ……えっと……。

ミナミ、おろおろするがどうにもならない。更におろおろするが、どうにもならない。

コータロが出てくる。

コータロ 干しといたやつ、あれ、あの、エリが二重になってるさ……。

ミナミとコータロ、目が合う。

コータロ ……ナツミ？

ミナミは、風呂上がりの男を見るのが初めてである。

ミナミ あっ、あの、す、すみません！

ミナミ、部屋を飛び出して玄関の外に出る。サトミが自室から出てくる。

サトミ あれっ？

コータロを見る。

サトミ このバカ！

コータロ え、なんで？ 誰？ え？

サトミ 服を着て来いバカ！（玄関に向かう）

コータロ そう、ごめん、シャツ知らない？

サトミ は？ 何？ 捨てた。

コータロ 嘘だろ？

サトミ（外に向かって）ごめん、もう大丈夫だから！ もう居ないから！（コータロに「引っ込め」と合図）

コータロ いや、だから服……。

サトミ、ダンスから適当に服を引っ張り出し、コートロに投げる。

サトミ 大丈夫！ 安全！ 安心！ 快適空間になったから！

コートロ、サトミの無言の圧力に負け、浴室に戻る。サトミはステレオのスイッチを入れ、机の上を整える。ステレオからメタルロックが流れてきて、サトミ、チャンネルを変える。ミナミが入ってくる。

ミナミ あの……すみません……。

サトミ いや！ こっちこそごめん。ホント、よく言っとくね。ごめんね。

ミナミ 私、全然そういうの慣れてなくて、すいません。

サトミ いや、いいの！ こっちが、というか、アイツが悪いから。ほんとに。まあ、ね、とりあえず、どうぞ。

サトミが勧めた所にミナミは座る。サトミは向かいに座る。

サトミ ……何か飲む？ (立ち上がろうと)

ミナミ いえ……大丈夫です。

サトミ そっか……。 (座る)

ミナミ サトミさんですよね？

サトミ 私？

ミナミ はい。

サトミ そう。サトミ。

ミナミ ……お母さんの……。

サトミ ……妹。

ミナミ 妹……。

サトミ ……ミナミちゃん。

ミナミ はい。

サトミ ミナミちゃんは……お母さんの……。

ミナミ お母……おばあちゃん？ え？

サトミ ごめん。姉の……。

ミナミ 娘です……。

サトミ 娘……。

ミナミ はい……。

サトミ そう……。

沈黙。

サトミ お腹空かない？ 何か食べる？ (立とうと)

ミナミ いえ、大丈夫です。

サトミ そっか……。 (座る)

ミナミ さっきの。

サトミ え？

ミナミ 男の人は、あの……。

サトミ コータロ？

ミナミ コータロさんは、お母さんの……。

サトミ ……ダンナ。

ミナミ ダンナさん……。

サトミ そう……。

ミナミ つまり、私の、私の。

サトミ うん……。

ミナミ お、お父さん？

サトミ ご、ごめん。分かんない。そこは、はっきりとは。

ミナミ 分かんない。

サトミ 私は、その辺よく知らないし。ナツミからもコータロからも聞いてないから。

ミナミ 聞いてない……。

サトミ いやでも多分！ 絶対！ そうだと思う！ お父さんだと思う！ ちよくちよくケンカはしてたけど、う、浮気したとかそういう事は無かったと思うし。

ミナミ う、浮気……。

サトミ いや、ごめん！ 変な事言っつて！ 無い！ 浮気は無いわ！ いや、でもアイツが父親だと嫌かもしれないけど。

ミナミ そんな事は無いです。

サトミ あ、そう……。

沈黙。

サトミ 遅いね、あいつ。コータロね。

サトミ、立ち上がり、浴室を覗く。しかし、コータロは居ない。

サトミ は!?

裏口が開いている。

サトミ あのバカ！ クソ！ 逃げやがった！

ミナミ えっ？

サトミ 裏口から出てったみたい。

サトミ、すぐさま電話をかけるが繋がらない。

サトミ 出ないし……。
ミナミ 出ない……。

沈黙。

サトミ ……何かホントごめんね。って私が謝るのも変だけど。
ミナミ いえ……私が悪いんです。急に来たりして、お、お父さんもびっくりしたと思うし。
サトミ お、お父さん……。

ミナミ 私、どうしても、お父さんに会いたくて、思い立って、勢いで来てしまっ、あの、住所検索して、行けるかもって思って、勢いで……。すいません。

サトミ いや、ミナミちゃんが悪い訳無いよ。そりゃ、会いたくもなるよ、お、お父……さんにもね。そりゃ、勢いで来ちゃうよ。行けるかもって……今、どこに住んでるの？

ミナミ あの、お願いがあるんですが。(急に立ち上がる)

サトミ ハイ。

ミナミ あの、少しの間、ここに住まわせて下さい。

サトミ え？

ミナミ 少しでいいんです。四日か、三日か、明日まででもいいんです。あの、私、お金あんまり無くて、まだ未成年だし、今夏休みだし、あの、課題終わらせて来てるので！

サトミ あ、そう、え？ そこ？

ミナミ お願いします。

ミナミ、土下座する。サトミは慌てる。

サトミ そんな、いいよ、そこまで。全然。何日でも全然いいよ。

ミナミ 何日でも？

サトミ うん、うん、こっちこそ折角来たのにごめんね。散々だったよね。あいつ、コートロ、あんなんだし。

ミナミ あいつ、あんなん……。

サトミ え？

ミナミ いえ……。

サトミ とりあえず、ね、そうだ、お風呂入って、ゆっくりして、明日話そ。色々疲れたでしょ。

何か食べる？ ご飯か、甘い物とか。

ミナミ はい。ありがとうございます。

サトミ 着替えとか、持ってる？

ミナミ 一応、一通りは。

サトミ じゃあ、お風呂入って。その間に何か作っとくから。

サトミ、ミナミを連れて浴室に行く。無人の部屋に音楽が鳴っている。

コータロが玄関から入ってくる。人が居ない事を確認し、部屋の電気をつけ、音楽を消す。サトミが裏口から入ってくる。コータロは引き出しを物色している。

サトミ おかえり。

コータロ (びっくりするが) ……ただいま。……え？ 外居た？

サトミ (頷く)

コータロ あ、そお…。

サトミ 裏口から入ると思って待ってたんだけど。

コータロ 誰を？

サトミ ……。

コータロ 俺か。

サトミ 何か言う事あるんじゃないの？

コータロ あの子は？

サトミ 寝てる。

コータロ 帰ってないのか…。

サトミ このバカ。

コータロ ごめんって。

サトミ バカ。アホ。人でなし。

コータロ そこまで言わなくてもいいだろ。

サトミ そこまで言われるような事してるから。

コータロ 違うんだって。

サトミ 何？

コータロ 誤解してるから、色々。

サトミ 言い訳ですか。ここまでやっていてまだ言い訳できるんだ。へー。

コータロ いやだから、聞いて？ 違うんだよ。まず逃げたんじゃないくて、今日予定あるって言う

っただろ？ 待ち合わせがあったんだよ。

サトミ 誰と？

コータロ 仕事関係の。

サトミ だからわざわざ逃げるように出て行ったと。

コータロ 逃げてない。

サトミ 逃げる「ように」って言うてるでしょ。

コータロ お前ね。

サトミ だってそう見えるじゃない。何も言わずにこっそり出て行かれたら。そう見えない？

コータロにはそう見えない訳？

コータロ 分かったって。ごめん。

サトミ ミナミちゃん、しばらくうちに居る事になったから。

コータロ え？ ミナミちゃん？ あの子？

サトミ アンタと話せなかったから。「お父さんに会って見たかった」って、一人で来ちゃった

んだって。アンタに会いに来たんだから。それなのに、逃げる「ような」事して。

コータロ お父さんって。

サトミ 何？

コータロ お父さんってあの子が言った？ 俺の事？

サトミ 言った。言ったよ、はつきりと。何？ 自覚無いの？

コータロ 自覚ってというか、無いんだよ。それも誤解なんだよ。

サトミ 無いって何。

コータロ ありえないの。

サトミ 何が。

コータロ だから、俺がお父さんとか。

サトミ アンタね、現実逃避もいい加減にしなさいよ。

コータロ 現実的に考えて、あり得ないの。

サトミ はあ？

コータロ 俺とアイツの間に、子どもが居る訳が無い。絶対。

サトミ 何で。

コータロ 無いから。

サトミ 何が。

コータロ だからその……きつかけが。

サトミ きつかけ……？ ……えっ？

沈黙。

サトミ ……一回も？

コータロ ……一回も。全く。

沈黙。

サトミ アンタ、ナツミと何年付き合ってるの。

コータロ 高校ん時からだから……十六年ぐらい。

サトミ その間に一回も無いの？ 本当に？

コータロ うん……。

サトミ 会わなすぎて忘れてるんじゃないの？

コータロ いや、マジで。それは無い。

サトミ あっそう……。

沈黙。

サトミ じゃ、あの子何なの？

コータロ 俺が聞きたいよ。聞きたくないけど。

サトミ 他の誰かとの……。

コータロ わー！ 言うな。まだ口に出すな！

サトミ (圧倒されて)ご、ごめん。

コータロ もー、どういう事なんだよ。もう……。

サトミ じゃあミナミちゃんは何でここに来たの。

コータロ だから知らないって。あの子、ミナミちゃん、ナツミの事何か言ってた？

サトミ いや、全然。疲れてるだろうから、明日話そうって言った。

コータロ 明日ね……。

サトミ 明日は逃げないでよ。

コータロ だから逃げてないって。

サトミ ああごめん、ごめん。逃げる「ような」事しないでよね。

コータロ 逃げる「ような」事はしないけど、俺明日も出るから。

サトミ はあ？

コータロ サトミちゃん休みだっけ？

サトミ な訳ない。仕事。

コータロ そうだっけ。

サトミ とぼけないでよ。

コータロ 悪い。

サトミ 普段引きこもってたんだから、明日の予定ぐらい先に言ってよね。

コータロ 引きこもってない。

サトミ コータロが家にいる予定で考えちゃった。

コータロ (笑う)

サトミ は？ 気持ち悪。

コータロ いや、なんか、デジャヴった。

サトミ は？

コータロ あの子、ナツミに似てるよな。

サトミ そう？

コータロ 何ていうか、何となく。

コータロ、サトミを見る。

コータロ サトミはさ……。

ケータイが鳴る。サトミである。

サトミ 夜中なんだけど。

コータロ 誰？

サトミ (ケータイを見て) ……。

コータロ ああ……。おやすみ。

コータロ、自室へ去る。サトミ、ケータイを取る。

サトミ もしもし？

誰もいない部屋。ミナミが入って来る。人が居ない事を確認し、部屋を物色する。物音がして、ミナミは慌てて適当に座る。コータロが入って来る。

コータロ (ミナミを見つけて驚く) おお……。

ミナミ (会釈)

二人、暫し見つめ合う。

コータロ・ミナミ あの、(気付いて) あ……。

ミナミ (黙る)

コータロ えーっと、朝ご飯、あるよ。

ミナミ あ、ありがとうございます。

コータロ うん。作ったの俺じゃないけど。

ミナミ あ、サトミさん……。

コータロ そうそう。あ、サトミさんは、仕事行ったから。夕方には帰って来るよ。

ミナミ はい。

ミナミ、部屋から出て行く。コータロ、ミナミを気にしつつパソコンを開く。コーヒーをすすりながら電源を入れ、仕事をするが反応が悪い。

コータロ ……。

コータロ、ミナミも気になるがパソコンも気になる。

コータロ (パソコンに向かって) 低血圧かな? ん? もういい時間だぞ? 起きろー。(パソコンをこづいて) このヤロー。寝ぼすけさんめ。

ミナミ、朝食を持って立っている。コータロ、ミナミと目が合う。

コータロ あ……。

ミナミ (どう反応すればいいか分からない)

コータロ ……どうぞ。

コータロ、机の向かい側を指す。ミナミ、コータロの向かい側に座る。朝食を摂る。コータロはパソコンの復活を待っている。気まずい。

コータロ・ミナミ あの、(気付いて) あ……。

コータロ (どうぞ、の合図)

ミナミ (会釈して) あの、サトミさんは、どういったお仕事を……?

コータロ 何か事務系？ 俺もよく知らないけど……。

ミナミ そうですか。

コータロ う、うん……。

ミナミ お、お父さんは！

コータロ (嘔く)

ミナミ あっあの、どういった、お仕事を、されて、いるんですか？

コータロ (咳き込んで) え？ え？

ミナミ あの、だから職業は。

コータロ ああ、パソコン関係。

ミナミ パソコン。

コータロ そう、P C、P C。ネットとか。

ミナミ そうですか……。

コータロ おお……。

ミナミ、再び朝食を摂る。コータロはパソコンの復活を待つ。

コータロ ミナミ……ちゃんだよね。

ミナミ はい。(もぐもぐ)

コータロ いくつ？

ミナミ 十五になります。今年。

コータロ 十五か……。

ミナミ はい。

コータロ 今、夏休みか。

ミナミ はい。

コータロ そうか。

パソコンが動き出した。コータロ、音楽をかける。座り直し、作業に取りかかる。ミナミ、朝食を摂り終わる。

ミナミ ごちそうさまでした。

コータロ 流しのところに置いてたらいいから。

ミナミ いえ、洗います。

コータロ あ、そう。どうも……。

ミナミ、部屋を出る。コータロ、深いため息。気を取り直して、仕事を始める。ミナミが戻ってくる。さっきと同じ所に座る。コータロ、仕事に集中しているフリ。ミナミはじっと固まっていたが。

ミナミ あの、お、お父さん。

コータロ (衝撃に耐える) あ、あのさ、その呼び方、一回やめてもらっていい？

ミナミ え？ す、すいません……。

コータロ いや、いいんだけど。いや、よくないか。

ミナミ 嫌ですか？

コータロ 嫌じゃないんだよ。嫌じゃないけど、いや、嫌か？（自問する）……とにかく、色々

シヨックが大きいというか。別の呼び方にしてくれる？

ミナミ はい。

コータロ うん……。 （仕事に戻ろうと）

ミナミ あ、あの、「父上」。

コータロ （中断し）……そうじゃないんだよな。

ミナミ えっ？ じゃあ「親父」？

コータロ 違うんだよな。そうじゃないんだ。そうか、そう取ったか。

ミナミ え？ えっと……？

コータロ いや、俺が悪かった。つまり、その……父親的な呼び方はやめてもらえないかっていう話なんだよ。つまりは。

ミナミ 父親的な……。

コータロ 「お父さん」とか「父上」とか「親父」とか、そういう類の。

ミナミ ああ……。

コータロ うん。

ミナミ あの、何で？

コータロ 「何で」？ 何でって、そりゃ、まあ、だってさ……。

ミナミ ……。 （答えを待っている）

コータロ だ……。 （言いかけて）……恥ずかしいんだよ。ほら、呼ばれ慣れてなくて。

ミナミ 恥ずかしい……。

コータロ うん、そう、恥ずかしい。だから一回、普通に名前とか、そっちにしてくれる？

ミナミ はい。

コータロ 悪いね。

コータロ、仕事に戻る。ミナミ、またじっと固まる。コータロ、ミナミの様子は気になるが、気にしないフリをする。

ミナミ あの、コータロ……さん。

コータロ ん？

ミナミ お尋ねするんですが。

コータロ （おたずね……）ハイ。

ミナミ サトミさんとは、お、お付き合いされているんですか？

コータロ （噴く）え？ え？

ミナミ あの、確かに、そういう事は、個人の事情もあるし、サトミさんも魅力的な方だと思うし、お……コータロさんにも色々理由があって、単に良いとか悪いとかで片付けられる問題では無いと思います。

コータロ は？

ミナミ だけど、その、私に言いづらいとも思うんですけど、でも、はっきりさせておくのも、大事かなって。

コータロ は？ え？ ちょっと……。

ミナミ ど、どうなんですか？

コータロ いや、どうも何も、無いよ。

ミナミ ……えっ？

コータロ 無いよ。何も。何もっていうか、何も。

ミナミ 何も？

コータロ 何も。サトミさん、彼氏居るし。

ミナミ えっ。そうなんですか？

コータロ うん。割と金持ちの。

ミナミ 金持ち……。

コータロ 夜中に電話かけてくる系の。

ミナミ 電話。

コータロ いや、さすがに無いだろ、サトミとは。いやー、どぎついだろ。

ミナミ よ、良かった……。

コータロ そんなに？

ミナミ あの、私、晩ご飯作ります。

コータロ もう？

ミナミ 買い出し行きます。(立とうと)

コータロ え？ いいよ、俺、作るから。

ミナミ コータロさんが作るんですか？

コータロ 当番制だから。

ミナミ そうですか。

コータロ (気を遣って) じゃあ、一緒に作るか。な。せっかくだから。

ミナミ あ、はい！

コータロ、パソコンを閉じる。買い物袋と財布を持って、ミナミと共に家を出る。無人の部屋に音楽が鳴っている。サトミが帰って来る。

サトミ ただいま。

誰も居ない。

サトミ ……。

サトミ、自室に行く。音楽を消す。コータロとミナミが帰って来る。サトミがタオル等を持って出てくる。

サトミ (二人に驚く) びっくりしたあ……。

コータロ おかえり。ただいま。
ミナミ おかえりなさい。帰りました。
サトミ ああ、うん……。どこ行ってたの？
コータロ 晩ご飯の買い出し。ついでに散歩とか。
サトミ 二人で？
ミナミ はい。
コータロ 結構あちこち行って来た。
サトミ へえ。どこに？
コータロ 「」とか。
ミナミ あと「」に。
サトミ それ楽しいの？
コータロ まあまあ。
サトミ あ、そう……。
コータロ (ミナミに) 飯作るか。
ミナミ はい。(台所に行く)
サトミ 話したの？
コータロ 何を？
ミナミの声 コータロさん、豚肉はすぐ使いますか？
サトミ コータロ、さん……。
コータロ とりあえず冷蔵庫に入れといて。
サトミ 打ち解けてるし……。
コータロ まあ、一日居たんで。いい子だね、ミナミちゃん。
サトミ 出かけるって言ってたのは？
コータロ 明日にずらした。
サトミ ちゃんと話したって事だよね？
コータロ え？
サトミ だから、あの子が何なのかとか。
コータロ ん？(とぼける)
サトミ は？
コータロ いやあ。
サトミ 言っていないの？ え？ 聞いてないの？
コータロ いや、物事には順序があるだろ？ まずは仲良くなろうという事で。
サトミ 順序おかしくない？
コータロ いや、何となく色々話はしたよ。料理が好きとか、課題が大変とか。最近の若い子つてアレだな。俺等の時とそんなに変わってないな。小さい事で騒いだり悩んだりしてんだよ。
サトミ おい。おいおい。話したってそういう事？ え？ そこじゃなくない？
コータロ ごめんて。
サトミ ホントに何も分からないままなの？
コータロ うーん。

サトミ 「お父さん」呼びじゃなくなったのは？

コータロ 「恥ずかしいから」って言った。

サトミ は？

コータロ ごめんて。

サトミ 何で？

コータロ 何でって……何となく言い辛かったし。向こうも、そういう肝心な話避けてる感じだったし。まあいいかなー、みたいな？

サトミ 「まあいいかなー」って、じゃあどうするのよ。いつ話すの？ 結局何なの？

コータロ 俺も色々考えてるって。勇気もいるんだよ。

サトミ 先延ばしにしてるだけでしょ。

ミナミ、台所から戻って来るが、立ち止まる。

コータロ あのさ、サトミちゃん、これは俺達の問題なんだから。俺とナツミとあの子のさ。も

うちよつと好きなペースでやらせてよ。

サトミ は？ 私には関係無いつて事？ 心配もするなって？

コータロ そうじゃなくて。お前が焦ってもしようがないだろうって話。

サトミ 焦ってない。コータロだって昨日、何なんだって言ってたじゃない。

コータロ いや、思ってるよ？ どうしようかとか、あの子何なのかとかも。ナツミの事も気になってるし。

サトミ じゃあ何？ 何で私だけ焦ってるとかほつとけとか言われなきゃいけないの？

コータロ ほつとけは言っていないだろ。

サトミ そういう意味で言ったんでしょ。

コータロ サトミ。

サトミ コータロはいつもそうやって、何でも適当に受け流すよね。「まあいいか」「どうしようかな」。で結局、何もしないまま事が過ぎるのを待ってるみたいなさあ。

コータロ お前ね。

サトミ ナツミが三年前に消えた時も、七年前の時も、「まあそのうち」って言って、そのままだし。思えば、思えば？ 最初に行方不明になった時からアンタは動かなかったわ。

コータロ あのね。

サトミ そんなだからナツミが何度も出て行ったり子ども作ってきたりするんでしょ？ ていうか一度もセックスしてないのもアンタのせいなんじゃないの？

ミナミ (思わず) セッ……。

コータロ・サトミ ! (気付く)

ミナミ、慌てて隠れ直す。意味無い。気まずい沈黙。

サトミ ……風呂。(行こうと)

サトミのケータイが鳴る。

サトミ ……。

コータロ 出れば？ (ミナミに) お待たせ。

ミナミ い、いえ……。

コータロ 作ろうか。

ミナミ はあ……。

コータロとミナミ、台所へ去る。サトミ、ケータイを取る。

サトミ もしもし？ え？ 何も無いよ。うん……。 (台所を気にして) あのさ、話があるんだけど……。 うん……。 今から。 うん……。

コータロ、台所からちよつと様子を見る。サトミと目が合うが、サトミは逸らす。

サトミ うん、ハイ。じゃあ後で。(切る)

コータロ 出んの？ 飯は？

サトミ いらない。

コータロ 風呂は？

サトミ ……。(無視して玄関に向かう)

コータロ いじめてんなよ。

サトミ ア……。 (言おうとしたがやめて) ……荷物まとめといてね。

コータロ は？

サトミ 私も私のペースがあるから。

コータロ 何？

サトミ サトル君に会ってくる。会って、結婚の話ちゃんとしてくる。

コータロ けっ……は？

サトミ コータロはコータロのペースがあるかもしれないけど、私だって色々考えてるし、周りの事もあるし、決断する事も抱えてるの。

コータロ 決断？ え？ 待って、け、結婚？ すんの？ サトル君と？

サトミ 前から、そういう話は出てたから。

コータロ 何も知らないけど？

サトミ アンタに言うような事じゃないし。

コータロ おま、お前ね。

サトミ 彼にもコータロの話してないし。私今、一人暮らしって事になってるから。実際、お姉ちゃんは居ないし、両親は退職してバカンスだし、アンタさえ居なければほぼ実家に一人暮らし。

コータロ 居なければって、だから荷物まとめて出て行けって？ 急すぎるだろ。

サトミ 大体、おかしいでしょ。今、この状況が、既に。何でお姉ちゃんのダンナと二人で暮らししてる訳？ 実家で？ 一、二週間でならまだしも、三年で何？ いや。お前、嫁を探しに行けよ！

コータロ だって、今までも帰って来ただろ、ナツミ。またそのうち帰って来るって思うだろ。サトミ ほら、また。「まあそのうち」「まあいずれ」。そう言ってフラフラ、フラフラ。結局あの子が来てもそのまんまじゃない。

コータロ ……。

サトミ まあ、私には関係無いけど？ じゃ、私はサトル君と話して来るから。コータロはコータロの好きにしたら？ (出て行こうと)

コータロ あっ、サトミ、結婚の件は俺、認めてないし、ちゃんと一回……。

サトミ、乱暴にドアを閉めて出て行く。残されるコータロ。

コータロ ……サトル君に会ってから……。

様子を窺っていたミナミが台所から出てくる。

ミナミ あの……。

コータロ (出て行ったサトミに) お前が出て行ってどうすんだよ。

ミナミ 何か、あの、すみません。

コータロ いや、こちらこそ。見苦しいものを……。

ミナミ いえ、全然。あの……。私のせいですよね。すみません。

コータロ え？

ミナミ 私が急に来て、事情も説明せずにいるから。

コータロ あ、分かってたんだ……。

ミナミ 私、私、別にお二人を困らせた訳じゃないんです。あの、ずっとここに泊まるつもりもなくて。ただ、その……。

コータロ いや、いいんだよ。いや、良くはないか……。まあでも、色々思うところがあるんだろうし……。

ミナミ すいません。

コータロ って言いつつ、何も話さないよね。

ミナミ え？

コータロ ミナミちゃん。

ミナミ ……すみません。

コータロ まあ、聞かない俺が悪いか。

ミナミ えっと……。

コータロ 何？

ミナミ えっと……サトルさんっていうのは？

コータロ あ、そっちね。

ミナミ そっちです。

コータロ まあ、いいんだけど。サトル君はサトミの彼氏で、サトミとサトルってコンビみたいだろ。しかもサトル君の苗字、佐藤だから、佐藤サトルと佐藤サトミってね。兄妹かって笑ってたんだけど……。

ミナミ サトルとサトミ……。

コータロ うけるよね。

ミナミ はあ……。はは……。(どう反応していいか分からない)

コータロ はは……。(どう話を続けるべきか分からない) えーっと、うん……。結婚だっせ。

ミナミ 結婚……。

コータロ おお……。ちょっとついていけない……。

ミナミ はい……。

コータロ まあ……。そういうのってタイミングだしな。勢いも大事……。かな……。参ったな。

コータロ、そう言いながらも、とりあえず部屋に落ち着く。

ミナミ コータロさんとお母さんも、勢いで結婚したんですか？

コータロ え？ ああ、ナツミ？

ミナミ あ、ハイ。

コータロ いや、俺達は勢いっていうか……。十年ぐらい付き合ってたし、もういい加減って感じだったというか。って言ってもちよくちよくナツミ居なかったけど。アイツ、ナツミね、昔から放浪癖あるんだよ。破天荒っていうか。知ってる？

ミナミ あの、何となく……。

コータロ あのさ、今更だけど、ミナミちゃんって、ナツミと暮らしてるんだよね？

ミナミ はい。あの、ちゃんと一緒に住みだしたのは三年ぐらい前からなんですけど……。

コータロ ああ……。三年か。

ミナミ だから、昔のお母さんの事はよく知らないんですけど。

コータロ 昔ね。いや、今とそう変わらないんじゃないかな。俺は今のナツミが分からないけど。自由人って感じ？ ナツミが初めて行方不明になったのって、俺と付き合いたての頃だったんだけど。行方不明っていうか、メモ書きは残ってたんだけどね。

ミナミ メモ書き。

コータロ 「沖繩行ってきます」っせ。で、三か月ぐらいして突然帰ってきたんだよ。普通に日焼けして、お土産持って。マジで沖繩行ってたんだと。

ミナミ はあ……。

コータロ ってなるだろ？ 何も言えなかった、呆れて。呆れていうか、もう、言葉にならないよな。ナツミ、勝手にバイトしてたし、金は持ってたから、その後も度々どこか行っでは帰って来て、お土産持って。高校は中退するし、ろくに就職しないし、そのくせ金は稼いで来るしでさ……。

ミナミ 何か……。思い返すと、納得って感じです。

コータロ あ、そう？

ミナミ 思い当たる事が何となく。

コータロ 謎なんだよな、アイツ。ナツミ。もう十六年ぐらいの付き合いだけど、未だに俺もよく分からんよ、アイツの事。

ミナミ あの……。

コータロ ハイ。

ミナミ よく分からないまま、その、ずっと別れずにいるのは何故なのでしょうか。

コータロ え？ さあ……そんなタイミングも無かったしな。

ミナミ あのっ、お母さんの事は、好きなんですか？ 今でも？

コータロ え？ は……え？

ミナミ お母さんの事。

コータロ え？ ああ……わ、若いな。十五歳……。

ミナミ コータロさんも、私に聞いてきませんね。

コータロ え？

ミナミ 私の事とか、お母さんの事とか。コータロさんは、私が話さないからって言いましてけど、ど、コータロさんも私にそういう事聞いてきませんね。

コータロ あ、うん……。

ミナミ それって、興味が無いからなんですか？ その、お母さんの事が、もう好きではなくて、興味が無くなったからなんですか？

コータロ いや、そういう訳じゃないけど……。え？ 聞いてほしかったの？

ミナミ 少しだけ。

コータロ 少しだけ？ は？

ミナミ その、もつと驚いたり、問い詰めてきたりされるのかなと思っていたので……少しだけ拍子抜けしました。

コータロ あ、そう……。何かごめん。

ミナミ いえ、すいません……。

コータロ これでも結構、動揺したんだけどね。だって身に覚え無いし。

ミナミ ですよ。

コータロ ですよ……。え……？

ミナミ あ。

コータロ お？ え？ 今……。

ミナミ (おろおろするが、どうにもならない)

コータロ 知ってた？

ミナミ えつと……。 (おろおろするが、どうにもならない)

コータロ 俺、お父さんじゃないの、知ってた？

ミナミ ……はい。

コータロ はー、何だ、分かったのか。

ミナミ すいません……。

コータロ って事は、その感じだと、え？ 割と色々隠してる？

ミナミ えつと……。はい。

コータロ あ、そう……。

ミナミ すみません。(土下座)

コータロ いや……。まあ……。いや……。まあ……。いいか。

ミナミ え？

コータロ いや、良くは無いか……。でも……。うーん……。まあ、いいか。
ミナミ い、いいんですか？

コータロ 何かもう、色々、別に良いかなと。
ミナミ よ、良くないです！（突然立ち上がる）
コータロ え？ 何？
ミナミ ちゃんと聞いて下さい！ あの、お母さんの事とかも、ちゃんと！
コータロ は？ え、何？ この状況。

突然玄関のドアが開く音がする。サトミが入ってくる。

コータロ 早。

サトミ ……。

コータロ お、おかえり。

ミナミ お、おかえりなさい。

サトミ ……。

コータロとミナミ、顔を見合わせる。

コータロ 悪い、まだ荷物とか、まだなんだけど、悪い。

ミナミ すいません、私もまだ……。

サトミ ……。

コータロとミナミ、顔を見合わせる。

コータロ サトミちゃん、早かったね。式とか、籍とか、また話すとか？

ミナミ 私、お母さんに言います。

コータロ 繋がんの？

ミナミ 大体……。

コータロ すごいな、娘の力。

サトミ 話さないし言わないで。

コータロ お、おお……。ごめん。

ミナミ すいません。

サトミ （深いため息）

コータロ 何？ お前、もうマリッジブルーなの？

サトミ 違う。

コータロ 違うんだ。

サトミ 違う……。

ミナミ、立っていたがなんとなく座る。コータロとミナミ、見合わせる。

コータロ サトル君、何だって？「佐藤サトミになってください」って？ 二人とも、イニシヤルS・Sだな。はは……。

サトミ フラれた。

ミナミ え？

コータロ はは……え？ は？ 何て？

サトミ フラれました。

コータロ え？ いや……え？ え？

サトミ フラれたの。結婚の話は無くなりました。

ミナミ な、何故。

サトミ 「そんなつもり無かった」って。

コータロ だって、前から話してたって……。

サトミ 私の勘違いだって。

コータロ 勘違い？

サトミ ご飯食べてる時に「毎日一緒に食べられたらいいね」とか、別れる時に「家まで一緒に帰れたらいいのね」とかそういう言葉は決して結婚しようという意味ではなく、私が勝手に勘違いしてたって事です。

コータロ ……。

ミナミ ……。

コータロ それは……そうか……それは……おお……。

サトミ 友達ん家行こうかと思っただけ、とりあえず出て行かなくて良くなったって言いに戻ってきました。

コータロ そ、そうか……おかえり。

サトミ さっき聞いた。

コータロ うん……。

ミナミ あ……。 (何か言おうとするが、やめる)

サトミ ……何かミナミちゃんごめんね。変な事で振り回して。

ミナミ いえ、全然。私は、全然。も、元はと言えば私のせいなんじゃ……。

サトミ いや、そんな事ないよ。元々、結婚とかする気無かったみたいだし……。いずれはこうなってたかなって……。

ミナミ あ……。 (何か言おうとするが、思いつかずやめる)

コータロ ま……まあ、何というか、ええ……。そんな男だったって事で、な。

サトミ は？

コータロ すいません。

サトミ ……いや……ごめん。さっきも言いすぎたし、ごめん。

コータロ ど、どうした、サトミさん。急に弱気になるなよ、今謝られると逆にキツイ。

サトミ はー……。

サトミ、コータロの座るイスに向かう。コータロは立ち上がって席を譲る。サトミ、イスに座る。

サトミ はー……。

コータロ そんなに落ち込むなって。

サトミ 落ち込むっていうか、現実を受け入れるのに時間がかかるっていうか。

コータロ まあ勘違いはな。シヨックでかいな。

サトミ 勘違いって……何？　じゃ何で一緒に居たいとか平気で言う訳？　そりゃ勘違いもするってもんじゃない？

コータロ まあ、色んな形で一緒に居る人も居るしね。

サトミ 男って最低。

コータロ それは偏見だよ、サトミちゃん。

サトミ はー……。

コータロとミナミ、顔を見合わせる。

コータロ アルコール、入れるか？

ミナミ (即座に立ち上がる)

サトミ いい……明日仕事だし。明日の夜にする。

コータロ あ、そう……。

サトミ 絶対すごい事になるし。

コータロ あ、そう……。

サトミ ……コータロはいいよね。

コータロ は？　俺？

サトミ そんな悩んだりしないし。

コータロ そんな事ないけど。

サトミ 考え込んだりしないし。

コータロ 馬鹿にしてる？

サトミ のくせにちゃんと結婚とかしてるし。

コータロ ちゃんと？

サトミ 割とラブラブだし……。

ミナミ ラブラブ……なんですか。

コータロ な、何なんだよ。何？　急に。

サトミ ナツミはナツミで楽しくやってるし……。(ミナミを見て) 子どもまでいるし……。(コータロを見て) あ、ごめん。

コータロ いや、そう、その話……。(言い出すか迷う)

サトミ (気付かず) 普通に焦るわ。だって何か私だけ何も無いっていうかさ。結局、私もナツミ探したりしてないし、コータロと惰性で暮らしてるし……。

コータロ いや、それは、未だ嫁の実家に居る俺が悪いんだけど……。

サトミ ま……お金は入れてるしね。

コータロ それはそうだけど。

サトミ 愛より変化を優先しちゃったよね……。

コータロとミナミ、顔を見合わせる。

(何言ってるの？)(分かりません)

コータロ サトミさ、色々、焦る事無いって。俺達、全然ちゃんとしてないだろ。嫌な事受け流してただけだからさ。

サトミ そう、冷静に考えたら私の方がよっぽどちゃんとしてるんだけど。

コータロ 「ちゃんと」ね。

サトミ そういふんじゃなくて。なんか私がバカみたいな……。いや、まあいいか。

コータロ 大分キテるな、お前。

サトミ 疲れた……。何か一人で疲れた。

サトミ、その場で寝始める。

コータロ 俺達も結構疲れたけどな。

コータロとミナミ、顔を見合わせる。ミナミ、毛布を持ってきてサトミにかける。コータロ、音楽をかける。二人、サトミを置いて去る。サトミ、一人眠る。

朝。サトミ、目覚める。シャワーに行く。コータロ、起きてくる。コーヒーを淹れに行く。ミナミ、起きてくる。台所に行く。コータロとミナミ、豚肉料理を持ってくる。昨晩の残り。サトミ、着替えて出てくる。三人で昨晩の残りを食べる。サトミ、時計を見る。家を出る時間である。サトミ、鞆を持ち玄関に向かう。コータロとミナミ、見送りに行く。サトミ、玄関のドアを開けようとして一度閉める。

コータロ 忘れ物？ スマホ？

サトミ あのさ、一つ聞くけど。

コータロ 俺？ 何？

サトミ 何でナツミとやってないの？

コータロ は？

ミナミ セツ……。 (固まる)

コータロ お前は朝から何言ってるんだよ。

サトミ 割とラブラブなのに。

ミナミ ラブラブ……。

コータロ 何なんだよ昨日から。何？ 女ってそんな感じ？

サトミ それは偏見だけど。どうなの？

コータロ どうも何も……。 (ミナミを気にして) いいだろ、もう。

サトミ 病気系なの？

コータロ いや……。

サトミ プラトニックみたいなの？

コータロ 別に、そういう感じではないけど。

サトミ 何なの？ じゃあ。

コータロ いや、逆に何なの？

サトミ 何となく。

コータロ あ、そう……。

サトミ 何でなの？

コータロ 別に……大した話じゃないんだよ。昔、高校ン時一回そういう空気になったけど……。

ミナミ そういう……。

サトミ なったんだ。

コータロ やめない？ ミナミちゃんの前で。

ミナミ いえ、大丈夫です。

コータロ あ、そう……。

サトミ けど、何？

コータロ けど、まあ……実行には至らなかったっていうか。

サトミ は？ 何で？

コータロ その……アレだったから。

サトミ アレ？

コータロ 恥ずかしくて、できなかったっつーかね……。

サトミ は？

ミナミ え？

コータロ そのまま、ズルズル、一六年。

サトミ 何それ。

ミナミ ズルズル……。

コータロ うん、ズルズル。

サトミ その後も？

コータロ 何か、初めにヌルっと避けちゃったから、もう、そういう空気になる事も無くなった
っていうか。

ミナミ そういうものですか……。

コータロ いや、あんまり真に受けられないで？ 逆にツライから……。

ミナミ すいません。

コータロ 謝られるのもな……。

サトミ じゃ、行ってきます。

コータロ え？ 何？ お前は何も無いの？

サトミ え？

コータロ 反応とか感想とか。

サトミ 欲しいの？

コータロ 欲しいっていうか、え？ サトミ聞いてきたよな？ 今、わざわざ、ミナミちゃんの前で。

サトミ そうだけど、何か、特に無かった。

コータロ 何なんだよ。

サトミ (時計を見て) やば、ギリギリ。

ミナミ あの、サトミさん。

サトミ 何？

ミナミ あの……だ、大丈夫ですか？ 昨日の今日というか……。

サトミ まあ、明日休みだし。じゃ、行ってきます。

サトミ、出て行く。

コータロ 何がしたかったんだ、アイツ……。

ミナミ 大丈夫なんでしょうか、本当に。

コータロ 誰？ サトミ？

ミナミ (頷く)

コータロ まあ、大丈夫ではないでしょ。

ミナミ ですよね。

コータロ 大丈夫じゃなくても、お仕事しなきゃいけないのが、オトナです。

ミナミ オトナ。

コータロ そう。

ミナミ 大変ですね……。

コータロ 本当は皆やってる事なんだけどね。昨日、スーパーのレジしてくれたおばさん、居た

じゃん？

ミナミ はい。

コータロ あのおばさん、一昨日不倫がバレた。店長との。

ミナミ え!? 店長ってあの？

コータロ そう、あの人が良さそうな顔の。店長も結婚してるから話がややこしくて。今、夫と修羅場真っ只中。

26

ミナミ え!?

コータロ かもしれない。

ミナミ かも？

コータロ 散歩中にすれ違ったお兄さんは昨日飼った猫が死んだかもしれない。家の前で見たJKは、いじめられててなんかすごく不安。

ミナミ ……。

コータロ とかね。

ミナミ 全部嘘ですか？

コータロ 嘘だけど、そういうの隠して皆生きてるよねって話。

ミナミ ……。

コータロ 歳とか関係なく。ミナミちゃんだって色々あるでしょ。

ミナミ ……はい。

コータロ サトミはな。ちよつとアレだけど。あまり無いヤツ。

ミナミ コータロさんは、急にそれっぽいな事を言いますね。

コータロ え？ ぽい？

ミナミ 何ていうか、オールオツケーみたいな空気にするというか。良い事言ったような感じになるというか。

コータロ いや、実際割と良い事言ったよ、俺。今ちよつと恥ずかしいし。

ミナミ あ、すいません。

コータロ いや、なんか逆にごめん……。

コータロ、音楽をかける。

ミナミ あの、お母さんの事なんです。(改まり)

コータロ (つられて改まり) あ、ハイ。

ミナミ あの、別にいいっていうのは、どういう事なんですか？

コータロ え？

ミナミ えっと、昨日の……。

コータロ ああ、昨日の。アイツ帰ってきたから中途半端になったんだっけ。

ミナミ はい。

コータロ ああ……。別に深い意味は無いけど……。

ミナミ 無いんですか。

コータロ うん。

ミナミ そうなんですか……。

コータロ うん……。

ミナミ 何故ですか？

コータロ な、何故？

ミナミ 気にならないんですか？ 私が、誰の子どもかとか……。お母さんが、う、浮気しているかもしれないですよ？

コータロ 急にグイグイ来るな……十五歳……。

ミナミ その、コ、コータロさんとはそういう、け、経験なくても、あの、他の人とは、色々、その、あるかもしれないのに……。

コータロ お、お……。

ミナミ そういう心配も、無いんですか？ 興味が無いんですか？ 本当はラブラブじゃないんですか？

コータロ その言い方キツいな……。

ミナミ お、お母さんは、コータロさんの事が大好きだと思います。

コータロ (むせる) は？ え？ 何？

ミナミ だけど、今はそれでも無いって言っていました。

コータロ え!?

ミナミ でも、好きじゃなくなったとか、そういう問題では無いって感じでした。

コータロ あ、そう……。え？

ミナミ どういう事なんですか？

コータロ は？

ミナミ コータロさんはどう思いますか？

コータロ え？ な、何なの？ 何の話……？

ミナミ つまり、その、じゃあ、何で結婚して、そのままなんだろうって思っ……。

コータロ 君、実はすごい喋りたがりだな。

ミナミ す、すいません。

コータロ いや、いいんだけど……。そうか……。ナツミが……。あ、そう……。
ミナミ すみません、私、勢いで色々、考えてて。
コータロ 色々あったもんね。

ミナミ 結局、コータロさんは何がしたいのかわかっていうか。何で何もしないのかわかって思った
というか。

コータロ 厳しいな。

ミナミ すいません。

コータロ いや……。うーん……。まず、ナツミに対する、その、想いが変わったとかじゃないん
だよ。

ミナミ え？ 好きじゃない訳じゃないという事ですか？

コータロ うん、うん、そんな感じ。

ミナミ ラブラブなんですか？

コータロ あの、ちょっと一回聞いてもらってもいいかな。

ミナミ あ、すいません。

コータロ うん。それで、だから、ミナミちゃんが来た時も、結構動揺したし、ショックだった
し。俺とは……。なあ。何か子どもとかいう空気じゃなかったから。けど、ミナミちゃん見
てて、何ていうかまあいいかってなったんだよね。

ミナミ それは、(言おうとして)

コータロ (制す) 聞いてね。

ミナミ はい。

コータロ ミナミちゃん、別に問題なく生活できるし、素直だし、寂しそうにも見えなかったし
あと、そう、ちょっと似てたんだよな。ナツミと。雰囲気っていうか、何ていうか、何と
なく。

ミナミ 似てた……。

コータロ そうそう。三年だっけ。一緒に暮らしてらって聞いて、何か納得した。

ミナミ ……。

コータロ ミナミちゃんが元気なら、まあ、ナツミも元気かなと思った。だから、まあいいかな
と。うん。

ミナミ でも……。

コータロ あ、いや、だからって、俺もこのままでいいとは思ってないから。俺なりに、何とか
しようとはしてるし。

ミナミ お母さんの事で、ですか？

コータロ それは、追々。追々っていうか……。あ、ヤベ、今日、俺、出るんだった。

ミナミ 今日ですか？

コータロ おー。適当にくつろいで。夕方には帰って来るから、サトミ。

ミナミ はい。

コータロ じゃ。(自室に行こうと)

ミナミ コータロさん。

コータロ ん？

ミナミ あの、ありがとうございます。(上下座)

コータロ え、何急に。何が？

ミナミ 私、夕飯の買い物行ってきました。

コータロ え、もう？ また？

ミナミ コータロさん。

コータロ 何？

ミナミ 頑張ってください。

コータロ あ、うん……。あ、待ち待ち。

コータロ、ミナミに買い物のお金を渡す。ミナミは受け取り、家を出る。コータロは自室に。着替えて、出かける。

ミナミが帰ってくる。荷物を台所に置きに行く。自室をノックする、コータロは居ない。とりあえず夕飯を作り、台所に行く。サトミが帰ってくる。

サトミ ただいま。

返事は無い。サトミ、音楽を消す。

サトミ ……。

サトミ、洗面所に行こうとして、台所から出てきたミナミとバッタリする。

サトミ び、びっくりしたあ……。

ミナミ おかえりなさい。

サトミ あ、うん、ただいま……。ひとり？

ミナミ (頷く)

サトミ コータロは？

ミナミ 用事があるって。

サトミ あ、何か言ってたな、そういえば。

サトミ、手を洗って戻ってくる。

ミナミ (すかさず) ビールですか？

サトミ は？

ミナミ 焼酎ですか？ ウイスキー？

サトミ え？

ミナミ 今日アルコールって、昨日……。

サトミ ああ……。いや、いいいいいよ、まだ。コータロ、いつ戻るか分かんないでしょ？

ミナミ はい。

サトミ 一応、戻ってからにする。

ミナミ そうですか。

サトミ 昨日、ホントごめんね。びっくりしたよね。
ミナミ い、いえ、私は全然。こちらこそすいません。急に来たり、色々。
サトミ いやいや、全然。何のお構いもできなくて。
ミナミ そんな全然。
サトミ 全然。
ミナミ 昨日は、コータロさんが出かけてくれましたし……。
サトミ あ、そうか。どうだった？ 色々話せた？
ミナミ はい。
サトミ そっか。良かったね。
ミナミ はい。
サトミ ……ナツミに子どもが……。
ミナミ え？
サトミ こんなに大きな。十五歳って、ねえ……。
ミナミ はあ……。
サトミ ぶっ込んで来るよね。十五年も隠し通してき……。
ミナミ えっと……あの。(言い出そうとして)
サトミ (気付かず) ミナミちゃんに言う事じゃないか、ごめん。
ミナミ いえ、あの……。いえ。
サトミ そしてフラれる私か……。
ミナミ ……えっと、ビール……。 (立とうと)
サトミ いや、大丈夫。
ミナミ あ、ハイ。(座る)
サトミ ナツミ、元気？ お母さん。
ミナミ はい、元気です。
サトミ 急に出て行ったりしてない？
ミナミ 今のところは、はい。
サトミ ちゃんと「保護者」やってる？ PTAとか。面談とか。
ミナミ 一応、プリントは読んでます。
サトミ やろうとはしてるんだ。
ミナミ 進路とか、相談してます。
サトミ 十五だもんね。でも、ナツミ、高校中退だから……。
ミナミ コータロさんから聞きました。いつの間にか、辞めてたって。
サトミ そうそう。そういう事簡単にできちゃうんだよね、ナツミは。
ミナミ 私が高校相談した時も、「嫌だったら辞めればいいじゃん」って言われました。
サトミ 子どもにも言っちゃうんだ……。駄目だよ、真に受けたら。
ミナミ はい……。
サトミ まあ、子育てできてるだけすごい事だよ。考えられないもん。昔のナツミを思うと。コ
ータロにはアレだけど。
ミナミ アレ。
サトミ 浮気はね……。

ミナミ あ……。えっと……。
サトミ ま、私は浮気どころか普通に独りになった訳だけど……。
ミナミ あ。(立とうと)
サトミ 大丈夫。
ミナミ あ、ハイ。(座る)

沈黙。

ミナミ サトミさん。

サトミ 何？

ミナミ 私、コータロさんの子どもではありません。

サトミ え、うん……。それは、うん。

ミナミ 私、お母さんの子どもでもありません。

サトミ え？

ミナミ ナツミさんは私のお母さんではないです。

サトミ ……。

ミナミ ……。

サトミ は？

ミナミ ご、ごめんなさい。

サトミ え？ ……え？ ど、どういう……。

ミナミ えっと……。

サトミ だって、ナツミの事「お母さん」って。

ミナミ はい。

サトミ 一緒に暮らしてて。

ミナミ はい。

サトミ え？ 今までの会話、何？ 話の流れ……。

ミナミ 私、あの……。

サトミ まさか、全部嘘？

ミナミ いえ、あの、本当です。「お母さん」って言ったのはナツミさんの事だし、三年前から一緒に住んでるのもナツミさんです。

サトミ じゃ、何で。

ミナミ 私のお母さん……えっと、本当のお母さんは、お父さんと離婚したんですが。

サトミ 離婚……。

ミナミ 私はお父さんについて行ったんですが、お父さんは再婚してて。

サトミ 再婚。

ミナミ 新しいお母さんができたんですが、その、色々あって。私は家を出る事になって。

サトミ え、うん……。

ミナミ 新しいお母さんの友達がナツミさんで、それで、ナツミさんが引き取ってつくれて、一緒に住む事になったんです。

サトミ ……。

ミナミ えっと、つまり、私は、ナツミさんから見ると友達の再婚相手の連れ子です。
サトミ ……。

ミナミ つまり、血とか全然繋がってない、他人です。

サトミ え……ええ？

ミナミ ざつと言わずにいて、すみません。

サトミ ご、ごめん。ちょっとまだついていけてない……。

ミナミ えっと、つまり、私から見ると、ナツミさんは、お父さんの再婚相手の友達です。

サトミ あ、うん、そりゃ、そうだけど。そうじゃなくて。

ミナミ ああ……。

サトミ じゃあ、その、ミナミちゃんは……えーっと……どこから聞いていけばいいのか……。

ミナミ 私、お母……ナツミさんにダンナさんが居るって聞いて。

サトミ 話進めちゃうんだ……。

ミナミ でも、一緒に暮らしてないし。今思うと、多分そのうち、ここに連れて来るつもりだったのかなと思うんですけど。

サトミ あ、そうなの。

ミナミ その、あの、私、ナツミさんの、お母さんの家族がどんなのかとか、知りたくなくて。

でも、私がある、全然他人だって聞いたなら、追い出されるんじゃないかとか、お、お母さんにも迷惑かかるのかなとか、思っ、言えなくって。すみません。

サトミ いや、うん。えっと……そっか……。

ミナミ あ、急に来たらびっくりさせてしまうとは思ってたんですけど。

サトミ うん、びっくりした。

ミナミ でも、その、「お父さん」も見てみたかったし。本当のお父さんでは無いですけど。

サトミ あ、コータロね……。

ミナミ まさか、お母さんとコータロさんがあの、一回もアレとか、あの……知らなくて、すごく、色々混乱させてしまって、すみません。

サトミ まあ、知ってたら、それはそれで問題だったけど……。

ミナミ 本当は、昨日ちゃんと言っておけば、その、サトミさんも、こんな事には、ならなかったかもしれないのに。

サトミ え？ いや、それは全然！ 私の問題だから。そんな、気にする事ないから。

ミナミ はい……。

サトミ そこまで子どもじゃないよ、私も。

ミナミ コータロさんにも、色々ご迷惑を。

サトミ いいのいいの。アイツは。ちょっとはショック与えないと、何にもしないんだから。

ミナミ ショック……与えたいでしょうか。

サトミ 結構、効いたと思うけど。正直な話、帰ってくる時、思ってたんだよね。二人で出て行ってるんじゃないかと。

ミナミ え？

サトミ ナツミの所に行くのになって。今日なんて特に。昨日、私もワーって言っちゃったしさ。

ミナミ そんな……そんな事はしらないです。

サトミ そう？

ミナミ コータロさんと、お母さんと、一緒に住むなら、多分ここです。お母さんが帰ってきた
と思います。

サトミ どうかな。

ミナミ ここには、サトミさんも居ますから。

サトミ ……そこに私が入るのも、それはそれでどうかな……。

玄関のドアが開く。コータロが帰って来る。

ミナミ あ。

サトミ 帰って来た。

ミナミ (台所に行こうと)

サトミ いや、いいよ、ビールは。

ミナミ あ、そうですか。(座る)

サトミ そんなに飲ませたいの？

コータロ いただきます。(サトミに気付き) おかえり。

サトミ おかえり。

ミナミ おかえりなさい。

コータロ おー。

サトミ どこ行ってたの？

コータロ うん、ちょっと。

サトミ ミナミちゃんひとりにして。

コータロ サトミさんがもつと早く帰ってくると思ったんだよ。

サトミ 普通に残業だったし。

コータロ ブロックンハートに残業はキツいな。

サトミ は？

コータロ すいません。

コータロ、おもむろにサトミの前で正座する。

サトミ ……何？

コータロ いや……あ、ちょっと(ミナミを手招きし)こっち座って。

ミナミ はあ……。(座る)

サトミ ?

コータロ あのさ、俺、会ってきた。

サトミ 誰に？

コータロ ナツミ

サトミ・ミナミ えっ。

コータロ ……の、友達、というか知り合い。

サトミ え？

コータロ その、最近のナツミを知ってる人に。伝の伝の伝ぐらいの人。

ミナミ 伝の伝の伝……。

コータロ 多分ね、ミナミちゃんは知ってるんだと思う。向こうが知ってたから。
サトミ 何で急に。

コータロ いや、急じゃないんだよ。ごめん。

サトミ 何が？

コータロ ごめんっていうか……。最近、俺、ちょいちょい出かけてたろ？

サトミ うん。

コータロ アレ、これ。ナツミ探し関係。

サトミ は？

コータロ 昔の知り合いから辿って行って、あの、（引き出しを指し）昔の写真引っ張り出して連絡つきそうな奴とかあたってたり。で、今日、近い人に会えました。本当は昨日の約束だったけど。

サトミ いつから？ それ……。

コータロ 割と最近、最近。流石に俺もやばいなーと思って。

サトミ 何で言わないの？

コータロ いや、ごめん。何か別に、報告できる事もなかったんだよ。そしたら、ミナミちゃん出てくるしで、タイミング逃した。

サトミ 逃したってアンタ。……まあもういい。それで？

コータロ それで、まあ、ミナミちゃんの事とかナツミの事とか、色々、聞いてきた。

サトミ ミナミちゃんがナツミの子じゃないのとか？

コータロ え？ 何で知ってるの？

サトミ ついさつき、聞いた。

ミナミ すいません、言いました。

コータロ は？ そうなの？

ミナミ すいません……。

コータロ あ、何だ、そうなんだ……。え？ 俺には言わなかったのに？

ミナミ 今夜、話そうと思ってたんですけど、あの、出かけたので……。帰ったら話そうと思っ
て。

コータロ あ、そう……。何か、拍子抜け……。

サトミ ていうか、そこまでするならミナミちゃんに直接聞けばいいのに。

コータロ 色々、重なったんだよ。ミナミちゃんが来た日の夜に、その人と会う約束して帰って
きたから。今更キャンセルできないし、ミナミちゃん話しづらそうだったから、聞か
なくてもいいかな、と。

サトミ ふーん……。コータロはコータロなりに色々やってたって事か。

コータロ まあ、大分回りくどい事してたとは分かかってるけど。

サトミ 何かごめん。昨日はホント。

コータロ え、何？ ホントやめて急に、そういう謝るとか……。

サトミ どうするの？

コータロ え？

サトミ それで、これから。

コータロ ああ……。

サトミ ミナミちゃんがここに居る事、ナツミは知ってるんだよね？

ミナミ あ、ハイ。メモを残してきたので。

サトミ 知ってて連絡のひとつも寄越さないナツミもナツミだよね……。

ミナミ あの、お母さん別に連絡したくないとかではなくて。

コータロ うん。アイツはそういう発想、元々持ち合わせて無いから。

サトミ 自分の姉だと思うと、何かもう、な……。

コータロ 現実見なよ、サトミちゃん。

サトミ もう慣れたけど……。

コータロ あのさ、それで、俺達なんだけど。

サトミ あ、うん。

コータロ もうしばらく、ここで待たせてくれませんか。

サトミ ……。

コータロ 結局、何の進展も無い感じだけど。色々、考えるとそれがいいかなと思った。

ミナミ あの……。

コータロ ミナミちゃんは、アレだけど。夏休みまでだから、三十一日まで？

ミナミ はい。

コータロ そうなるけど。

サトミ ……。

コータロ ナツミは多分、こっち帰ってくるつもりだと思うんだよ。だって今までも最終的には帰ってきたろ。まあ、今度は子ども抱えて(ミナミを見て)……って歳でも無いか……35

とにかく、状況は違うけど。違うから、タイミング考えているような気がするし。

サトミ タイミング？

コータロ うーん、ちゃんとして暮らす準備とか、してるんじゃないかと。

サトミ ……。

コータロ ナツミ帰ってきて、話して、そっからまた考えようかなと、思っで。

サトミ ……。

コータロ サトミ？ 聞いている？

サトミ 聞いているけど……。

コータロ 結構大事な事連発したからな、俺。

サトミ？ ……私、家出ようか。

コータロ は？

ミナミ えっ？

コータロ 何で？

サトミ 何でって……何か……。何か、私ここに居座るの、変じゃん。

コータロ お前の実家だろ。

サトミ そうだけど、だって、ナツミ帰ってきたら、三人で暮らすつもりなんですよ？ 私が出

て行く方が早いし。

コータロ お前も住めばいいじゃん。

サトミ だからそれ、おかしいでしょ。え？ 三人家族の中に何で私が入る訳？ 違うでしょ、

それは。

コータロ は？ 何で？

サトミ は？ だから、いや、おかしいでしょ。夫婦と、娘と、何で妹？

コータロ 別に問題なくないか？

サトミ 問題なくない。

コータロ いや、問題なくな……なくないだろ。

ミナミ なくななくな……。

コータロ 分かんなくなるからやめて。

ミナミ はい。

コータロ 気まずいとか？

サトミ 今更そういうのは無いけど。

コータロ なら良いだろ。親と住んでる家族って沢山居るよ。

サトミ 親とは、違うでしょ。私は。

コータロ あのさ、サトミさ、お前、変とか「ちゃんと」とか考えすぎ。俺達が問題無いんだから、それでいいだろ。

サトミ それでいいモンじゃないじゃん……。アンタ達がそういう事考えないから私がいつも苦労してるんですよ。

コータロ 昔はさ、逆だったよな。ナツミとサトミ。

サトミ。 え？ 何。

コータロ 昔だよ。まだサトミが小学校か、あれ、中学入ってたっけ？ その位の頃はさ、たまにこの家に来た時、ナツミがサトミに怒ってたよ。

サトミ ……。

コータロ あん時は、ナツミの方がオトナだったんだな。どっちも突拍子無い感じだったけど。

サトミ そうだっけ。

コータロ お前の方が、オトナになっちゃったんだな。

サトミ ……。

コータロ なっちゃったっていうか、ならなきゃって思っちゃったというかさ。ミナミちゃんは、ナツミに似てるけど、サトミはさ、わざと似ないようにしてる感じだよ。

サトミ そう思うんなら、アンタらしっかりしなさいよ。

コータロ それは、ごめん。

サトミ 放浪癖と引きこもりに挟まれた私の気持ち、考えなさいよ。

コータロ 引きこもってない。けど、ごめん。

サトミ はー……。

沈黙。コータロとミナミ、顔を見合わせる。

ミナミ あの、サトミさん。大丈夫です。私だって、誰とも血繋がってませんから。

サトミ 何が大丈夫か分かんないけど、ありがとう……。

コータロ そうだよ。大丈夫だって。世の中、やっちゃいけない事なんてあんまり無いんだから。

サトミ それ極論過ぎない？

ミナミ お母さんも、サトミさんが居た方が安心すると思います。
サトミ 何に？

コータロ お前が実家守ってきたんだから、自信持てよ。
サトミ 守っては無いけど。

ミナミ そうですよ。サトミさんのお蔭で、お母さんもコータロさんも、帰る所があるんです。
コータロ 厳しいな。

サトミ 達観してるよね。

コータロ 元気出せ、サトミ。

ミナミ 元気出してください、サトミさん。

サトミ え、何？ 何で元気づけられてるの？ 何、二人息合い始めてんの？

ミナミ 私、三回「家族」やりましたが、今が一番好きです。今が一番、まともです、その、
だから、夏休みが終わって、一回戻って、また来た時に、サトミさんに迎えてほしいです。

サトミ ……。

コータロ 深いな……。え、俺は？

ミナミ あ、ハイ。

コータロ 浅いな……。

サトミ は……。分かった。出て行くのは一回、保留にする。

コータロ 保留な。

サトミ 保留。どうせナツミが帰ってこないし、進まないし。

コータロ それもそうだな。

サトミ お腹空いたね。

ミナミ あ、私、ご飯作りました。(立つ)

サトミ 今日は何？

ミナミ トンカツです。

サトミ 好きなの？ 豚肉。

ミナミ 好きです。

サトミ あ、そう……。

コータロ 手伝うよ。(立つ)

ミナミ はい。

ミナミ、台所に行く。コータロ、追いかけてようとして、

サトミ コータロさ。

コータロ 何？

サトミ ナツミの何が好きなの？

コータロ え？ まだその話聞いてんの？

サトミ (頷く)

コータロ 別に、何でもいいだろ。

サトミ まあ、そうなんだけど。

コータロ お前、フラれたからって、そういう事気にするなよ。

サトミ そうなんだけど。だってそんなに会ってもないし。やってもないし。

コータロ それいちいち言うな。傷つくから。

サトミ 何があるの？

コータロ 知らんよ、そんなの……。基本的に、お互いの事、どうでもいいと思ってるからじゃない？

サトミ そうなの？

コータロ 基本的な。

サトミ そんなもん？

コータロ 人による。以上。おわり。サトミさんも手伝って。

コータロ、台所に行く。サトミ、音楽をかける。少し、音楽を聞いていたが、

サトミ 私、焼酎。

コータロの声 しぶいな……。

サトミも台所に行く。無人の部屋に、音楽が鳴っている。

おわり。

ユニット・ピコ 演劇企画公演「Parasite-Parasite」

2018年 7月29日(日) 18:30開演 周南市 LIVE rise SHUNAN

2018年 8月19日(日) 14:00開演

18:00開演 山口市 別邸ひわだや

2018年 8月25日(土) 19:00開演 山口市 山口南総合センター 多目的ホール

「Parasite-Parasite」

脚本：中野志保

装丁：村田友紀

発行：ユニット・ピコ

MAIL unitpico@gmail.com

※ 上演希望の際は、必ずユニット・ピコまでお問い合わせください。